



# 座談会 ロータリーの本質を考える

～ロータリーの過去、現在、そして未来～

前編



バストガバナー  
佃 亮二



ガバナー  
廣畑 富雄



地区ロータリー情報委員長  
松田 順吉



ロータリーの友 地区委員  
安藤 文英

安藤 雑誌「ロータリーの友」の地区委員をしている安藤です。「ロータリーの友」に地区だよりというページがあり、そのための座談会をと思ったのですが、結局それとは別の企画として、ロータリーの本質について、またロータリーの過去、現在、そして未来への展望などについて話して頂きたいと思えます。初めにガバナーから、福岡ロータリークラブの誕生についてお願いします。

## 九州にロータリークラブが誕生した

廣畑 福岡ロータリークラブが誕生したのは昭和8年です。九州で最初のロータリークラブ(西日本で最初のクラブ)の誕生ですが、それが井坂さん(日本の2代目ガバナー)の月信に載っています。昭和8年2月の月信です。非常に興味があるのは、その創設に福岡県の小栗県知事が関与している。小栗さんは大阪で警察部長をされ、大阪ロータリークラブにたびたび招かれ感銘を受ける。そして福岡でもロータリークラブが是非欲しいと考える。ロータリーは実業界の向上、政界の向上、そして一般社会の人々の向上に重要なものと考え。つまりサービス、人のためになるには高い倫理性が求められます。それでロータリーの創立に努力されるのです。

松田 これが2700地区の原点ですね。当時の知事は官選でいわゆる大変偉い人なのに、ロータリーを良く知っていらっしゃる。小栗さんが大阪でロータリーを知ったというのも面白い。

廣畑 そうですね、井坂さんの月信の言葉を引用すると、「ロータリークラブが一般実業界の向上、また政界のためにも、はたまた社会風教のためにも極めて有用の機関たることを熟知し」と書いてある。社会のためというのは、慈善活動をするとかそういう事ではなく、社会風教のためだと。風教と言うのは、感化して導くと言う意味で、こちら辺はみな倫理的な話ですね。サービス、人の役に立つためには高い倫理性が求められる。発足時の顔ぶれとして「福岡クラブの役員は、左の通りに御座候」と書いてあります。(笑)

佃 どういう人達だったんですかね。

廣畑 みんなビジネスの方ですかね。

松田 いや、会長の野中季雄さん、この方は九大(九州帝国大学)の造船の教授です。戦艦長門の設計者です。

佃 それは面白い。

廣畑 役員ではないが九大医学部の児玉桂三さんの名前もあって面白い。児玉さんは東大に戻り学部長

もされた。本当にトップの人たちを集めたんでしょ。

松田 私の親父はチャーターメンバーでしたが、チャーターナイトの時に、福岡ロータリークラブの歌とこのを歌った記憶があります。

## ロータリーソング「奉仕の理想」に関する疑問

廣畑 歌でついでに言えば「奉仕の理想」という歌、あれは元気の出る歌だが、歌詞は本当を言えばおかしんですよ。

松田 「御国に捧げん」ですね。

廣畑 「御国に捧げん我等の生業」というのは、本来ロータリーにはない考え方でしょう。

松田 ご存じですよ、だれが「御国」にしたか。

廣畑 それは村田省三さん(三代目のガバナー)でしょう。

松田 原案は「世界」になっていたそうです。「世界に捧げん」。

佃 「社会」でもいいんだな。

廣畑 しかし、「世界に捧げん」というのは職業奉仕の理念とは反するように思います。シェルドンの職業奉仕の理念は、例えば靴屋さん。靴をつくり皆がはいて大変助かる(ロータリー哲学 Philosophy of Rotary)、職業を通じたサービスですからね。

佃 僕もいつも違和感があるなと思いつつ。

松田 3年ぐらい前のロータリーの友に、あれはおかしいと書いた人がありましたね。そうしたら、3人位の人から賛成と反対の投書がありました。

廣畑 ただ、あの歌は元気がいいじゃないですか。あれを歌うと何か元気がでる。みんな歌は歌っても「御国に捧げん」とは思っていないのでは。(笑)

松田 そうですね。ちょっと話を戻しますと、福岡クラブのスタートのときに知事がプロモートする。それもあつてか、チャーターナイトには知事と市長がちゃんと出席したという記録が残っています。

廣畑 あの頃はかなり外部の人を呼んでいますね。井坂さんの月信を見ても、かなり外部の人を呼んでいる。

松田 そういえば、井坂さんの月信をなぜ廣畑ガバナーが持つておられるか、私に質問した人があるんですけどね。梶原さん(故人、前地区事務局長)が配られたものですか。

廣畑 私はロータリー文庫から井坂さんの月信を入手し、偶然福岡ロータリークラブの誕生の記録を見つけました。井坂さんの月信は素晴らしいが、完全に残っているわけではない。だから有名な「ロータリーは慈善活動をするべからず」云々という月信、それは欠けています。

## 「サービス」と「奉仕」と「忠恕」

松田 話しを変えて、実は佃さんがうちのクラブで、1月のロータリー理解月間に卓話をされました。そして非常にユニークな「忠恕」という言葉が使われた。

廣畑 これはやはり説明が要りますね。

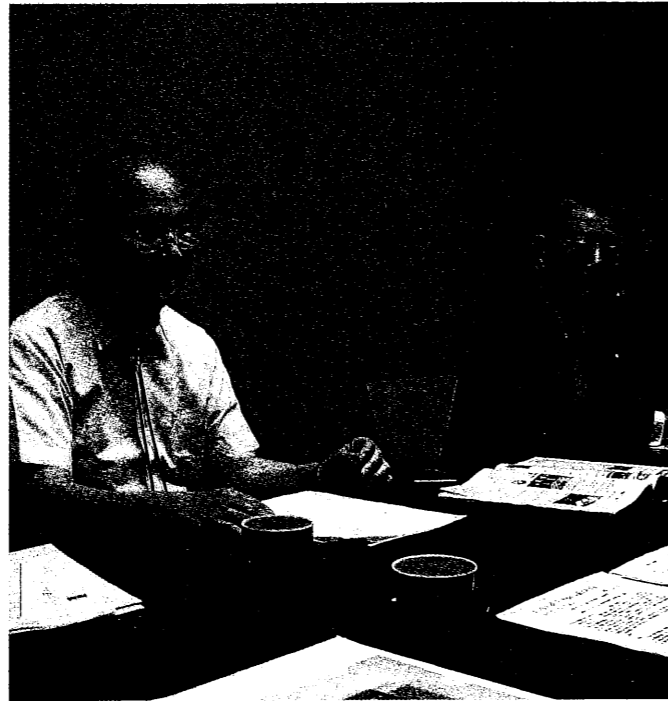
佃 忠恕という言葉は論語にあつて、たしか佐藤千寿さんがどこかで書いていらっしゃる。だから私が初めて使ったわけではありません。

松田 英語の「サービス」を適確に訳す日本語がない。ところが忠恕という言葉はぴったりだと、そ



う話しなんです。「サービス」という英語を「奉仕」と訳すのは問題があり、この「忠恕」の方が「サービス」を良く表しているというお話です。英語圏の横社会の中で生まれたロータリー、サービスの思想、それを日本に持ってきたら、日本はまだ縦社会だったんですね。奉仕と訳したから混乱が起こる。

廣畑 だから当時の月信を読むと、奉仕ではなく、サービスという原語を使っている。奉仕という言葉を使うようになったのは、多分戦争に入って英語が使えなくなってからでしょう。私はサービスを適確に表わす日本語が無いのだから、原語のサービスで押し通す方が良いと思っています。



## 2700地区の素晴らしい特色 ロータリーの外部活動について

廣畑 ロータリーの友の地区だよりに関連して、若干話し合いたいと思います。2700地区は伝統的な考え方があると思うんです。つまり職業奉仕を重視している。社会奉仕を無視するわけでは無論有りませんが。そして、青少年の育成に非常に力を注いできた。その例として、福岡ロータリークラブの奨学事業があるし、柳川ロータリークラブの奨学事業がある。福岡ロータリークラブの奨学基金は今幾らぐらいあるんですか。

松田 基金は1億2,300万円です。

廣畑 随分多額ですね。これは……

佃 毎年、追加的に皆が出しているんですよ。

松田 ある時期に基本金を1億にしようという運動を展開した。周年記念とか何かで基金を増やしていた。もったもこの時代ですから、果実、利子が少なくなった。

廣畑 私が面白いと思うのは、福岡ロータリーの場合はロータリアンの寄附でしょう。ところが柳川ロータリーは違う。突然6,500万円寄附したいという方があらわれる。「柳川の殿様と呼ばれて」という本を立花和雄さん(元ガバナー、立花直前ガバナーのご尊父)さんが書かれる。それを読んで感激した方が寄附を申し出られる。私もこの本に大変感銘を受けました。もともとは、柳川RCの近藤さんが多額の寄附をしてそれが契機のようなのですが。多分福岡ロータリーも柳川ロータリーも、それぞれ40人ぐらいの学生をサポートしているんでしょう。

松田 今は各学年8名ですから、24名です。一時は1学年10名で合計30名だったが、果実が減って、やむを得ず今は1学年8名。

佃 地区の伝統、あるいは地区の特色として、先ほど職業奉仕、青少年育成を主体とするという話しが出ました。そのとおりなんです。職業奉仕がロータリーの原点であると。そしてロータリーの原点ないし伝統を非常に尊重するという雰囲気は我が地区にはある。ここ2回の地区大会でああ

う決議をやったという事は、僕はアピールすべきではないかと思います。(註 2003-04年、2004-05年の地区大会決議 “我々はロータリーの良き伝統を尊重し 継承する事を決議します”)

廣畑 地区だよりにそれを含めるのは良いアイデアで、正に地区の特色ですね。

佃 我々の理念的な面ではそういう特徴がある。それから、外に対するいわゆる奉仕活動としては青少年育成ですね。

廣畑 発展途上国の援助は重要な事ですが、ラビツアさん(ロータリー財団の責任者、管理運営委員長)から最近ガバナー宛にきた手紙では、マッチンググラントについて、監査法人が厳しい指摘をしているようです。その事務手続に多額の費用がかかるとか、大変な金額の補助金に報告書が提出されていないとか。

松田 よその地区の情報がよくわからないが、ライラ(RYLA)はよその地区はどのようにやっているのでしょうか。この地区のライラは、一番最初に頑張られたのが岡野さんで、ガバナー時代に強力に推進された。そのまま今でもずっと続いていますね。

廣畑 他の地区では、ライラの地区委員会をローターアクトの地区委員会と一緒にしたところもあるようです。この種のプログラムは、元来米国でマイノリティーのためのプログラムですね。黒人の人とか、あるいはメキシコ系移民とか、全体のレベルが非常に低なかで、指導的な人を連れてきて集中的にトレーニングをする、そして元の集団へ戻してリーダーシップを発揮してもらい全体のレベルアップを図る。それが日本の社会に当てはまるかどうか。

RIの会長さんが毎年かわるでしょう。そして、ベストと思うプログラムを新しくスタートされる。あるいは新しい何とか月間ができる。企業の場合はスクラップ・アンド・ビルドが原則でしょうが、RIではスクラップが出来ない。地区あるいはクラブでいろんなプログラムに優先順位をつけ、見直す時期ではないでしょうか。

佃 地区で青少年育成に力を注いでいる一つの現れは、インターアクトが、意外とうちの地区は組織率が高く会員数も多い様に思います。

廣畑 柳川では特に多いですね。進学クラスがあって、その生徒達が全員インターアクトに入っている。

佃 ガバナーの時に調べてもらいましたが、日本の中でかなり上位だったと思います。

廣畑 ロータリーの外部活動は何れも素晴らしい活動ですが、インターアクトを含め、地区の各委員会の委員長さんに簡素化をはかって頂きたいと申し上げています。クラブの方からも、多くの委員会活動が重荷になっている、という声が聞こえてくる。地区内のクラブでは、会員数が半減したところもあります。米国辺りに比べると、日本では、よく言えば至れり尽くせりで、どうも世話のし過ぎかもしれません。

松田 しかし、今のお話は私には全く理解できないんです。こういう活動を前年したから今年もという、そういうものではないと思います。もし財政を圧迫するのならやり方を変える、あるいは全部見直す、クラブレベルでそういう努力が必要ではないでしょうか。

廣畑 それは正に正論ですね。もともと前々からのを変えるのはなかなか難しいのでしょうか。

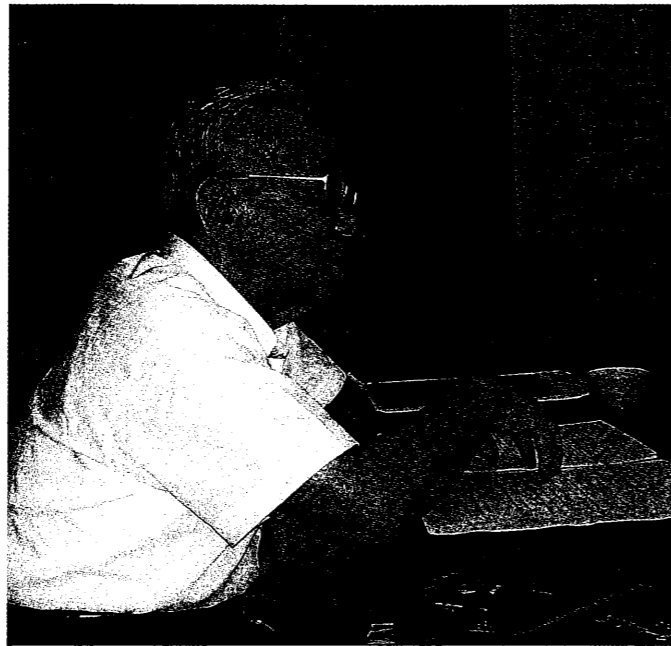
松田 もちろん大変難しいとは思いますが、前年やったのをそのまま引き継ぐというのはおかしい。

佃 だから、これは青少年の育成の問題だけではなくて、ロータリー全体の問題なんですね。役員が1年交代でしょう。どうしても前年ののをそのまま継続する事になりやすい。



### 「超私の奉仕」と「無私の奉仕」とコリンズ

廣畑 大阪の石井ガバナーから貴重な資料を頂きました。1911年8月のコリンズのスピーチです。この中に「サービス・ノット・セルフ」という言葉があり、これを日本では「無私の奉仕」と訳しています。これから超私の奉仕に発展して行きます。しかしコリンズのスピーチ原稿を読むと、本当は仲間だけに限らず(当時はロータリアンの中で原価でいろいろ取引をしていた)、ロータリアン以外の人にも取引の輪を広げて行こうとか、そういう話しです。田中毅さん(バスタガバナー)がシカゴに行って苦労して調べられた結果だそうです。コリンズは弁護士といわれるが、このスピーチ原稿では「果物卸商」と自分で言っている。



### 「ロータリーの魅力」を再確認しよう

廣畑 次ぎにロータリーの魅力について考えましょう。現在、ロータリーの魅力の再発見が重要な事と思いますが。

松田 ロータリーの魅力ですか、一言では答えを出し難い。

佃 確かに一口じゃ言い難いですね、人によって違うと思います。

廣畑 それはそうですね。

佃 ロータリーの魅力は人によって違うものの、その中で一番最初にある魅力は何か。それはいろんな立派な人と知り合いになって、いろんな違う世界の人たちの、一流の人たちの話を聞きながら、自己研さんというか、自己発展というか、そういう機会に恵まれる。それが一番最初の魅力であり、また皆に共通した最大の魅力だろうと思います。そこから先の魅力は、人によって随分違うでしょう。

廣畑 一言で言うと、異業種交流ですね。異業種の人たちが集まって、そこでいろいろと得るところがある。それがやはり最初の魅力だろうと思います。それから先になると、ロータリーというものを理解する、それが私は大きな魅力につながると思います。

松田 私が情報委員長で、新しく入られる会員の方にオリエンテーションをやる。その時にお話するのが正にそれです。異業種の方々と例会でおつき合いです、それが最重点なんです。だから例会出席をしないのは損ですよという事です。ホームクラブに出られずメーキャップに行く、向こうのクラブにも異業種の方で一流の方がおられるから、そこでもいろんな交流ができる、これがロータリーです。理論がどうの、ロータリーの何がどうのと、そんなものは3年位してからゆっくり勉強して下さい。まず異業種交流としての例会出席です。そうすればロータリーの魅力がはっきり分かってお話しています。

佃 スタートとしてはそうだと思います。そして、だんだん日を重ねて行くうちに、それぞれのロータリー観というのが、これ又人によって違うだろうけれども出てきて、それぞれの自分のロータリー観に沿った魅力が深まって行く。

廣畑 現在、社会奉仕がロータリーの中心だという考え方がありますね。ロータリーの魅力はそういう社会奉仕活動にあると考える。あるクラブに行くと、会長を勤めた方が多く退会される。奉仕活動は十分した、卒業だと言う事でお辞めになる。ロータリーの魅力を知らないうちにお辞めになる、そういう気がしますね。

松田 それは残念な事ですね。

廣畑 現在RIは、ロータリーへの入会を勧誘するとき、入会すればこういう奉仕活動に参加できますよと説いて勧誘して欲しい言いますね。私はそれは一寸おかしいんじゃないかと思っているんですが。

佃 このロータリーの友の8月号に、「ロータリーの基礎」というところがあります。「国際ロータリーは世界で最も古い伝統を持つ奉仕クラブ団体である」と言い切っています。そして、「地域社会や世界のために時間と能力を傾けて奉仕して行きます」と。これはちょっとおかしいんじゃないかなと。

廣畑 正にそうですね。そこには私もひっかかりました。

松田 これはRIの指定記事ですね。だからRIの最近の動きに問題がある。

### 「奉仕の理想」とは何だろう

廣畑 「奉仕の理想」とはロータリアンが誰でも知っている言葉です。これについてどうですか。

松田 この「奉仕の理想」というのは、私は言葉としてはおかしいと思う。原語のアイディアル・オブ・サービス(ideal of service)から言えば、奉仕の理想と訳すのはおかしい。

廣畑 どう訳せば良いのかな。

松田 梶原さんあたりは「奉仕の心」と言うべきだと。

廣畑 私は「奉仕」という言葉を使いたくない方だから、強いて訳すと「サービスの理想」。「奉仕」という言葉でなく、原語の「サービス」をそのまま使いたいですかね。

松田 そうですね。

佃 そこで一言言えば、私も全く賛成で、サービスという言葉は、人をおもんばかって、人のために行動する行為を言う。そして プラスして、倫理的な意味が非常に強い。そもそも語源的には、神に対する人間としての義務を果たすという意味がある。それで「サービス」を「奉仕」と訳すのは如何なものかと思っていた。すると論語の中の「忠恕」という言葉にぶち当たったわけですよ。

これは岩波文庫の解説によると、「忠」というのは内なる真心に背かないこと、自分の倫理観に背かない。「恕」というのは真心による他人への思いやり。なるほど、本当は「サービス」というのは「忠恕」と言うのがぴったりなんですね。古くさい言葉だが。

廣畑 それは良く理解しますが、やっぱり今の人が理解できる言葉でないとい具合が悪いのではと思うんです。「奉仕」という訳は使いたくないから、今の時点では、サービスは原語のまま サービスとして使う方が良いのではと思うのですが。

松田 その方がいいと思いますね。

廣畑 昨日のガバナー訪問で、そのサービスの話をして、要するにサービスというのは奉仕よりはるかに概念が広いんだと。ですから、戦争に行つて国の為には戦うのもサービスだが、人の為になる、小さい事もサービス。電車の中で不自由な人に席を譲るのもサービス。数日前東京のホテルに泊まりましたが、そこに郵便局がある。外人が多く泊まるので、営業時間が英語で書いてある。9時から5時までがサービスアワーと書いてあって、それを奉仕時間と訳せば妙なことになる。オー



ブンしている時間、皆さんのお役に立てる時間が9時から5時である、そういう事ですね。元来奉仕は縦社会の言葉で、それを使うのは誤解を招くと思います。

松田 あるクラブで、奉仕の理想と言われても分からない。しかし アイディアル・オブ・サービスと言えば分かる、という方がいました。つまり「奉仕の理想」という訳語は適切ではないという事ですね。

佃 私もどこかのIMで「奉仕の理想」って何ですかと聞かれて、うまく答えられなかった事があった。理想というと手が届かない感じがしますね。アイディアルは理想と訳されるが、英英辞典の一番最初には「完璧な形」と書いてありますね。

廣畑 それで、アイディアルというのは、英語で言うと in perfection イン・パーフェクション、完全な形という意味がありますね。ちょっと余計なことを言うと、アイディアル・オブ・ラブ、愛の理想的な形という表現がある。吉田茂さんの頃に白洲次郎という有名な人がいた。彼が若い頃恋愛をして、英語が非常に達者な人ですから、彼女に英語でアイディアル・オブ・ラブと書いている。ラブの最高の形だということなんでしょね。ただ、ロータリーで「奉仕の理想」と言うと何かよくわからない。

松田 ロータリーは大正時代に日本に入ってくる。そして当時の方は漢文の中で使われている言葉を非常に多用した。だから、今の時代には理解しにくい言葉がたくさんある。本当は今の方が分かる日本語に直していかなきやいかんのではないかと考えているんですよ。

廣畑 ロータリーの綱領や四つのテスト、訳にどうも問題があって分かりにくい。たとえば四つのテストで「みんなに公平か」というのはおかしい。「フェア」を「公平」と訳しているが、フェアはフェアプレイと言うように、公平ではなく「公正」と訳すべきでしょう。

松田 だから綱領にしても四つのテストにしても、年に1回ぐらいはロータリーの友に投書がある。おかしい、よくわからない、修正すべきだね。綱領ですが、新しい会員の方があれを読んで、おわかりですかと聞くとウンとうなられる。しかし、英語の原文の方を渡した途端に、良く分かったと言われる方が結構おられる。

佃 だから、翻訳をもっと良くするという事もあるが、例えば「奉仕」をどう変えるかなんていうのは難しい。むしろ「サーヴィス」で通した方が良い。だからその辺を皆さんに、特に新しい会員の人たちに分かるように説明し、情報として提供するのがまさに情報委員会なんですね。

松田 とは思っていますけどね。

廣畑 情報委員会と、それから情報委員長の責任は重いと。

松田 実は昨日の朝、非常にありがたい電話があったんです、地区協議会の委員長会議に情報委員長として出た。非常によかった、出席をして感激した。それで、うちのクラブで朝食を食べながら情報委員会が主催で勉強したい。ついては資料を何か下さいと。そういう意味でも情報委員会ができたということは一つの刺激ですね。

廣畑 良いことですね。ついでに言えば、ガバナー月信は余り読まれていないが、私は月信にロータリー情報をかなり書いているから、一つよく読んで下さいとお願いしたいですね。(続く)

※続きは、次の月信(3月号)に掲載いたします。

# 座談会 ロータリーの本質を考える

～ロータリーの過去、現在、そして未来～

後編



バストガバナー  
佃 亮二



ガバナー  
廣畑 富雄



地区ロータリー情報委員長  
松田 順吉



ロータリーの友 地区委員  
安藤 文英

※前号より引き続き座談会の後編をお送りします。

## ロータリーで考えるべき事項

**廣畑** 今のロータリーはおかしいという意見を良く聞きます。例えばRIは金集め、人集めに走りすぎるとか。ロータリーのどこに問題があるのでしょうか。

**松田** これは私は答えは一つと思うんですよ。RIに問題があると。RIが、シカゴのオフィスをヘッドクォーター(総本部)と言い出した(注:統制を強めようとしている)。そこからして問題があると。

**佃** 最近私が思う問題は、制度的な面と理念的な面と、その双方において伝統が崩壊しつつある、つまりロータリーの原点が崩壊しつつあるということですね。制度的な面では、例えば具体的には、1業種1人という原則から複数にする、どんどん広げる。また、これは廣畑さんがおっしゃるようなサイバークラブ(パソコン上のロータリークラブ)をRIが創るという問題。ロータリーの一番の魅力は、フェース・ツー・フェースで、それぞれの業界の最も素晴らしい人達から、いろいろ話を聞いたり接触したり、それがロータリーの魅力ですね。それを崩そうとしている。

理念的な面でおかしくなって来たのは、慈善事業へあまりに傾斜して来たのではないかと。慈善活動も大事だが、それだけなら、ライオンズだって何だって同じじゃないかと。ロータリーのロータリーたる原則が薄れてきている。さっきの「ロータリーの友」誌の「ロータリーの基本」(RIの指定記事)、そこに問題があるという気がします。

**松田** だから、フィロソフィーがなくなったということですね、RIに。

**廣畑** それで、私は佃さんの意見に100%賛成ですが、その原因を考えてみると、一つは発展途上国のロータリアンが随分ふえてきた。そして発展途上国への経済的な援助を強く要請する。ロータリーの原理・原則とは別にね。日本のロータリアンは原理・原則を重んじるし、かつ勉強する人がいるけれども、私はアメリカのロータリアンは、かなり違うんじゃないかと思います。いつかボストンのあるクラブに出席して、ポール・ハリスの話をしたら、一体誰の事かと言うから本当に驚いた。米国のロータリアンは、ロータリーは慈善団体であり、NPOの一つというような認識で入っている人が



多いと思いますね。

それで、昔 決議23-34(注:ロータリーの根本となる決議の一つ)が決定された頃(1923年)、ロータリーは分裂の危機に陥っていた。現在は、分裂という動きはないが、ある意味から言えば非常に深刻な状態にあると思います。

それから、これは佃さんも前に言っておられたが、制度的な面で役員が1年ごとにかわる。RIの会長さんが毎年変わり、新しいプログラムが追加され増加する。何事もスクラップ・アンド・ビルドが基本でしょうが、ビルドはあってもスクラップがない。それで負担が増えて行きます。去年私はロンドンロータリークラブに出席したのですが(北米以外で最初にできた由緒のあるクラブ)会員数が半分に減っている。その原因は、今のロータリーは忙しくなって、若い人が入って来ないためだという事でした。いろんな外部活動に時間を取られすぎる。

いろいろ問題があるが、日本からの情報の発信をもっと望みたいですね。それを去年の大阪の国際大会に出たときも強く感じました。最初の日日本人が圧倒的で、大阪ドームを埋め尽くす位でしたが、2日目以降はまばらになった。それでは情報の発信はできない。そこら辺が私は一つの問題だと思いましたね。それで、会議で何を議論していたかということ、要するに発展途上国の援助、それが至上命題なんですね。ある発展途上国の人が発言して、先進国で社会に対する奉仕活動をして、お金の価値からいえば、発展途上国で同じ金額を使う方がはるかに価値がある、だから援助をしてくれと。それから、金を集めるには会員を増やさなきゃいけない、会員を増やすためには配偶者、日本的には奥さんだけでも、それを全員ロータリーに入会させれば良い、そうすると会員数は倍になる。そういうロータリーの原理原則も何もない、無茶苦茶な議論をしている。1業種1人という原則がくずれたが、その会議のモデレーターは、1業種1人という制約を外した、1業種5人まで良い、あるいは会員数の10%まで良い、だから会員増強が楽になったはずだと発言していた。つまり変えたことを誇りに思っているんだな。問題は沢山ありますよ。沢山あるけれども、日本のロータリアンからは是非情報を発信する、さらにRIの会長を出す、そういう努力が要るんじゃないかと思いますね。以前 向笠さんが会長になられたが、22~23年ぐらい前でしょう。

松田 そうです。あれ以後日本人のRI会長は出ていないんですね。日本はロータリー大国でありながら会長が出ていない。

### ロータリーの魅力と団体での奉仕活動

松田 ロータリーに入って来る人が、団体で奉仕活動をするのになれていて、ロータリーにはそれが無い、面白くないと言う人がいますね。

佃 それは困るな。基本的にロータリーを誤解している。

廣畑 私もガバナー訪問に行って驚いたんだけど、福岡市や周辺では会員数はあまり減っていない。しかし地域によっては、会員数が半分近くに減ったクラブがある。

佃 経済の問題ももちろんあるが、それだけじゃないでしょうね。

廣畑 それで会員増強は非常に大事だけれども、ロータリアンとしてふさわしい人を入れてほしいと思いますね。ロータリーの魅力をきちんと伝えて、それに賛同する人を入れてほしい。

あるクラブに行くと、会員数が半分ぐらいに減っている。会員増強について、会長さんと意見が分かれたんですよ。会長さんは、外部に対して活発な活動をする、それが会員増強につながるという意見なんですね。私はロータリーはそういうものじゃない、外部に対する活動は、ロータリーの本業ではなく、いわばエキストラ・ワークだと。今の会長さんの中にはRIの影響が何か知りませんが、どこかに集団で行って何か活動をする、例えばタイならタイに行って何かやる、それがロータリーだというような意見の人がいますね。

松田 そういう人が増えたと思います。

佃 それはRIがそう言っているわけだから。

### クラブの自主性が必要

松田 そうですね。それとRIから何か言ってくれば、クラブはそれをやらなきゃいけないという義務感を持つ、あれも間違いですね。

佃 そうですね。だから、ロータリーのどこに問題があるのか話しましたが、RIへの日本代表にしっかりと欲しいということもあるけれども、本当は各クラブが、そういう問題に対応していきやすいんですね、自主的に。

松田 そうです。

佃 例えばRIが1業種5人までいいよと言ったって、うちのクラブは1業種1人だと言えればいい。

松田 そうです。ですから、もう少し各クラブが自主性を持たなきゃいけない、RIが旗を振ったら右へ倣えと、こういう傾向が現在強くなり過ぎている。ですから、クラブの自主性、ロータリーとは何ぞやというのを踏まえた自主性ですね、それが大切です。

佃 繰り返しになるが、だから情報委員会は大切です。

松田 そのようですね。

廣畑 情報委員会もそうだけれども、ガバナーの責任も非常に大きい。

松田 この前の地区協議会で、アンケートの中に、おたくのクラブは、クラブ細則、独自のものを持っておられますかという設問をしました。クラブ独自のクラブ細則があるのは半分のクラブしかなかった。手続要覧に載っている細則をそのまま使っているという返事も幾つかあった。これは困りますね

佃 つまり、クラブの自主性に対する認識が全くないということですね。

### ロータリーの未来への展望

廣畑 それでは、最後のところに入ります。ロータリーの未来、新世紀への展望。

松田 これはまさにガバナーが一番最初の月信(平成17年7月号)に書いておられることじゃないですか。

廣畑 「ロータリーの心と原点を大切に新世紀を始めよう」ですね。

松田 まさにそれだと思います。

廣畑 有り難うございます。

佃 それがなければロータリーは衰退すると。



松田 いや、衰退じゃないですよ、衰退以上です。今や真剣に考えたら、ロータリーはがけつぷちに近づいているという感じですね。

廣畑 がけつぷちは確かですね

佃 私もよく言うんだけど、廣畑さんの言われるロータリーの原点なり伝統というものが本当になくなって来ている。つまり、職業奉仕であり、友愛の精神であり、そういうものがなくなってくると、本当にライオンズとどこが違うんだということになる。そして、ライオンズはまさに慈善事業をやっているわけだから。

松田 そうです。金額は向こうの方がはるかに大きいからね。

佃 そうすると、本当のロータリーの原点なりロータリーの心がなくなれば、それは衰退する。

松田 私は4年ぐらい前に、「衰退」という言葉を使い出したんですよ。何ヶ月間、これをふやしていった、あれが衰退の始まりだと言ったんです。昔は週間だったんですよ。例会のときにそれをそれぞれのクラブが強調なさいということて週間だった。いつの間にやら月間になった。

廣畑 家族月間とかね。

松田 何とか月間というのは、私に言わせると、RIがロータリアン一人一人を尊重していない、個性を尊重せずに、団体行動をしるという路線なんですね。

廣畑 ロータリーの歴史は100年あるけど、大体70年かそこらは余り変わっていない。急激に変わってきたのがここ20-30年、ことにこの10年ね。

松田 そうですね。この10年はひどいです。

廣畑 私は、ロータリーというのは、心と原点を大切に、そういうスタンスに立ち戻れば、まだまだ脈はあると思う。

佃 私は、むしろ立ち戻れば、さらに再興すると思うんです。ロータリーが1905年にできたときの社会状況というのは、私はよく言うんですが、その50年前にマルクスの共産党宣言が出ているんですね。そして、1916年にレーニンの帝国主義論が出ている。そういう時代の中でロータリーが出てきた。資本主義の暴走、資本の暴走が始まって、みんな惨たんたる状況だった。資本主義の原点というか、マックス・ウエーバーの「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」で言われている、資本主義の原点に帰れというのが、ロータリーの出た社会的なバックグラウンドだと思うんです。

今まさにそうでしょう。ラタクルさん(元RI会長)が講演であれだけエンロンの批判をしていますね。日本だって西武であれ何であれ問題が多い。ここでもう一回ロータリーはその原点に立ち戻れば、その存在意義が、必要だということが再認識されると思うんですね。

だから、今このままだと衰退だと言ったけれども、逆に、廣畑ガバナーが言うように、ここで心と原点を再興して本当にそっちの方に踏み出せば、私はロータリーの存在意義というのはますます大きくなるんじゃないかなと愚考しますがね。

廣畑 それがこの座談会の一番いい締めくくりの言葉じゃないですか。やっぱり人間はポジティブ思考じゃないといけないし、確かに佃さんがおっしゃる通りだと思います。良い締めくくりの言葉になりました。

安藤 有り難うございました。どうもお疲れさまでした。